

観音寺の観音菩薩立像について

観音寺は、寺伝では平安時代後期に文覚上人^{もんがくしょうにん}(1139～1203)が、熊野・那智山で修行したのちに夢に靈感をおぼえて岩屋山に立ち寄り、大岩窟に念持仏の観音菩薩を安置したことが始まりであると語られています。

江戸時代の地誌『紀伊続風土記』には「岩屋山観音堂 境内周二町半高山寺に属す、惑在中の山上にあり、巖洞深さ二間幅四間高さ二間許、東に向ひて開く、堂その中にあり、此の地岩山重疊して形楯を並ふるか如く一種の奇状をなせり」とあって、江戸時代より高山寺(田辺市稲成町392)の末寺でした。

観音寺の本尊、観音菩薩立像は、像高103.7cm、穏やかで円満な作風をしめす平安時代後期(12世紀)の仏像です。これまで一般に公開されることはなく、文化財指定はされていません。

観音寺は人家から離れた場所にあり、今回、防犯対策のためにお身代わり仏像の製作、安置を行うことになったものです。お身代わり仏像の製作は、県立和歌山工業高校で昨年9月から12月までかけて計測・データ修正・出力を行い、1月～2月に県立博物館内にて着色作業を行って、このたび完成しました。



観音寺の観音菩薩立像(左側)とお身代わり仏像(右側)

上の画像をご提供します。和歌山県立博物館HP(<https://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp/>)、トップページの下方面にある「プレスリリース」内に、「画像ご提供 観音寺の観音菩薩立像(左側)とお身代わり仏像(右側)」を用意しています。画像をクリックして拡大し、画像コピーにてご入手下さい。

あるいは次のメールアドレス宛て、ご連絡下さいましたら、送信いたします。

admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp

3Dプリンター製「お身代わり仏像」による文化財の保全と信仰環境の維持

地域の中で守られ伝えられてきた文化財は、地域とのつながりを失うことなく、そのままの環境で維持・管理されていくことが最善であるが、防犯・防災の観点からやむを得ず他所に移さざるをえない事例があり、博物館はそうした場合の移動先として資料の寄託を受けています。ただし仏像等に移すことは信仰環境が大きく変容することであり、心理的なハードルも大きいといえます。

和歌山県立博物館では平成22年度より、県立和歌山工業高等学校と連携し、視覚障害者の学習支援のため、3Dプリンターによるさわれる文化財レプリカを作成(平成26年度内閣府バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰内閣総理大臣表彰受賞)していますが、この文化財レプリカを、防犯環境の整わない寺院や神社に安置し、盗難被害防止につなげる活用を平成24年度から継続して行っています。

・お身代わり仏像製作の流れ

- ①三次元スキャナーを用いて資料を様々な角度から非接触で計測する。
- ②取得した3Dデータを、CADソフトを用いて必要に応じて修正を施す。
- ③完成した立体データをもとに、3Dプリンターで出力。材料はプラスチック(ABS樹脂・ASA樹脂)。
- ④アクリル絵の具を用いて着色完成。

→①～③は県立和歌山工業高等学校産業デザイン科生徒による作業、④は和歌山大学教育学部美術科教育専攻学生による作業。

・これまでのお身代わり仏像の安置先(平成24～30年度で、13か所、26体。今回の観音寺を含む)

平成24年度	紀の川市	林ヶ峰観音堂	1体	菩薩形坐像(平安時代)
	紀の川市	中津川行者堂	3体	役行者及び前後鬼像(室町時代)
	田辺市	滝尻王子宮十郷神社	1体	滝尻金剛童子立像(平安時代)
	有田川町	某神社	1体	女神坐像(平安時代)
平成25年度	かつらぎ町	三谷薬師堂	10体	女神坐像(平安時代)
平成26年度	紀の川市	円福寺	1体	愛染明王立像(江戸時代)
平成27年度	紀の川市	薬師寺	1体	薬師如来坐像(平安時代)
	海南市	海雲寺	1体	釈迦如来坐像(南北朝時代)
平成28年度	紀の川市	横谷区茶所	1体	仏頭(平安時代)
	高野町	花坂観音堂	1体	阿弥陀如来坐像(平安時代)
平成29年度	有田川町	下湯川観音堂	1体	観音菩薩立像(平安時代)
	すさみ町	持宝寺	3体	阿弥陀三尊像(南北朝時代)
平成30年度	田辺市	観音寺	1体	観音菩薩立像(平安時代) ※2/26奉納

・生徒・学生によるお身代わり仏像の奉納ー地域住民へのフォローー

お身代わり仏像の提供、安置にあたっては、実際に製作に携わった県立和歌山工業高等学校の生徒、和歌山大学の学生が現地を訪れ、地域住民と実際に会ってコミュニケーションを取ることで、単なる「複製」ではないことを感じていただき、受け入れの心理的なハードルを下げるようにしています。生徒・学生にとっても貴重な社会参加の機会となり、教育効果を高める機会となっています。

(お問い合わせ先:和歌山県立博物館 073-436-8670、担当:大河内)